

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

大郷町長 田中 学

市町村名 (市町村コード)	大郷町 (04422)
地域名 (地域内農業集落名)	大谷西部地区 (東成田、中村、鶉崎、土橋)
協議の結果を取りまとめた年月日	令和6年12月17日 (第3回)

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

大谷西部地区では、高齢化による後継者(担い手)不足が顕著であり、近年の資材・燃料・機材等の価格高騰の影響も含め、農業収益が上がらないことが課題となっている。(野菜等農作物の価格が低いことが意欲低下を招く)また、圃場が小さく作業効率が悪い農地や用水路の改修が望まれる圃場があり、管理が不便な場所も多い。より耕作地の集約化を進める必要性がある。また、近年では猪被害の増加も課題となっている。

(2) 地域における農業の将来の在り方

条件の悪い圃場を解消するため条件整備事業を実施しつつ、中間管理事業を活用したシャッフルにより農地の集約化を図る。規模拡大を進めつつ、水路等の圃場整備を行い、より農地の集約化を進めていく。収益増を目的に、米以外の付加価値の付いた売れる作物(天候に強い作物・珍しい作物など)の栽培に取り組む。担い手については、個人農家の協力体制を模索しながら法人化などを検討し、地域の農業を担う経営体の明確化を図っていく。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	216 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	216 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

農業上の利用を第一とする農業振興地域内農用地区域農地(守るべき農地)とし、その周辺において今後も農業上の利用が見込まれる農地については、必要に応じて区域に加える。耕作が困難な農地や営農に適さない環境などの農地は、保全管理とする。

注:区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
地域内の農業法人及び認定農業者を中心に「農業を担う者」への集積・集約の推進する。耕作継続が困難な農地については、転作や保全管理など、地域で協力しながら、負担とならない最低限の維持に努めていく。農地の集約化を進めるためには、農地の所有者にも合意を得たうえで耕作者の変更や交換を行う必要がある。担い手により良い、効率的な耕作環境を整備するため、農地の所有者や地域にも協力を求めていく。
(2)農地中間管理機構の活用方針
農地の賃貸借契約や利用権設定、契約更新の際、金納で契約ができ、継続的に耕作できる担い手に安心して農地を貸すことができる農地中間管理事業を広く周知し、主たる担い手に集約・集積を進めていく。また、耕作者の変更など、適宜耕作者が営農しやすい契約内容に更新を促していく。
(3)基盤整備事業への取組方針
大規模な基盤整備に取組む予定はないが、比較的取り組みやすい耕作条件改善事業の導入を検討し、水路や排水機場などの部分的な耕作条件の改善を図ることを含め、担い手や地域と協議しながら進めていく。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
担い手の法人化や組織化を検討し、地域の主たる経営体を育成していく。売れる作物を栽培し、研修生等が参画しやすい環境を整え、新たな担い手の育成・呼び込みに取り組んでいく。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
現在、同様の支援サービスの活用の予定はないが、地域の実情に応じて活用を検討していく。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

☒ ①鳥獣被害防止対策	☒ ②有機・減農薬・減肥料	☒ ③スマート農業	☐ ④畑地化・輸出等	☐ ⑤果樹等
☐ ⑥燃料・資源作物等	☐ ⑦保全・管理等	☐ ⑧農業用施設	☒ ⑨耕畜連携等	☐ ⑩その他

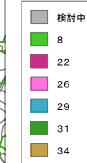
【選択した上記の取組方針】

①: 猪による被害が増加していることから、町猟友会と連携し鳥獣駆除を行う。また、鳥獣被害防止施設購入助成を行い、防止対策の拡充を図っていく。

②: 付加価値を付けた農作物を作るため、商品価値の高い有機農業・有機栽培等の取り組みについて検討していく。

③: ドローンによる農薬散布、トラクターや田植機の自動操舵システム導入による業務効率化に取り組む。

⑨: ホールクroppサイレージへの取り組み促進や動植物由来の有機肥料を活用した農作物の生産を推進していく。



0 200 400 600 800 1,000 m

【大分県内】		
県立	高等学校名	
(仮称)		
1	雄略	雄略1
2	雄略	雄略2
3	雄略	雄略3
4	雄略	雄略4
5	雄略	雄略5
6	雄略	雄略6
7	雄略	雄略7
8	雄略	雄略8
9	雄略	雄略9
10	雄略	雄略10
11	雄略	雄略11
12	雄略	雄略12
13	雄略	雄略13
14	雄略	雄略14
15	雄略	雄略15
16	雄略	雄略16
17	雄略	雄略17
18	雄略	雄略18
19	雄略	雄略19
20	雄略	雄略20
21	雄略	雄略21

【大分県外】		
県立	高等学校名	
(仮称)		
1	雄略	雄略1
2	雄略	雄略2
3	雄略	雄略3
4	雄略	雄略4
5	雄略	雄略5
6	雄略	雄略6
7	雄略	雄略7
8	雄略	雄略8
9	雄略	雄略9
10	雄略	雄略10
11	雄略	雄略11
12	雄略	雄略12
13	雄略	雄略13
14	雄略	雄略14
15	雄略	雄略15
16	雄略	雄略16
17	雄略	雄略17
18	雄略	雄略18

【山口県内】		
県立	高等学校名	
(仮称)		
1	雄略	雄略1
2	雄略	雄略2
3	雄略	雄略3
4	雄略	雄略4
5	雄略	雄略5
6	雄略	雄略6
7	雄略	雄略7
8	雄略	雄略8
9	雄略	雄略9
10	雄略	雄略10
11	雄略	雄略11
12	雄略	雄略12
13	雄略	雄略13
14	雄略	雄略14
15	雄略	雄略15
16	雄略	雄略16
17	雄略	雄略17
18	雄略	雄略18
19	雄略	雄略19
20	雄略	雄略20

【山口県外】		
県立	高等学校名	
(仮称)		
1	雄略	雄略1
2	雄略	雄略2
3	雄略	雄略3
4	雄略	雄略4
5	雄略	雄略5
6	雄略	雄略6
7	雄略	雄略7
8	雄略	雄略8
9	雄略	雄略9
10	雄略	雄略10
11	雄略	雄略11
12	雄略	雄略12
13	雄略	雄略13
14	雄略	雄略14
15	雄略	雄略15
16	雄略	雄略16
17	雄略	雄略17
18	雄略	雄略18
19	雄略	雄略19
20	雄略	雄略20
21	雄略	雄略21
22	雄略	雄略22
23	雄略	雄略23
24	雄略	雄略24
25	雄略	雄略25
26	雄略	雄略26
27	雄略	雄略27
28	雄略	雄略28
29	雄略	雄略29
30	雄略	雄略30
31	雄略	雄略31
32	雄略	雄略32
33	雄略	雄略33
34	雄略	雄略34
35	雄略	雄略35
36	雄略	雄略36
37	雄略	雄略37
38	雄略	雄略38
39	雄略	雄略39
40	雄略	雄略40
41	雄略	雄略41
42	雄略	雄略42
43	雄略	雄略43
44	雄略	雄略44
45	雄略	雄略45
46	雄略	雄略46
47	雄略	雄略47
48	雄略	雄略48
49	雄略	雄略49
50	雄略	雄略50